

番	一	命	帰		こ	と	以	り	空	う		思	眺	廊	い	体			不
才	人	と	る	（	と	も	外	残	間	わ	利	い	め	下	つ	を			思
は	で	向	日	わ	ば	会	に	さ	で	か	他	出	な	か	も	起			議
物	帰	き	が	た	か	い	方	れ	そ	ら	を	す	が	ら	よ	こ			な
音	る	合	来	し	り	た	法	た	れ	ら	見	。	ら	注	う	す			人
一	こ	っ	る	も	の	漂	が	流	を	送	っ		。	ぐ	に	。			形
つ	と	て	の	い	だ	者	思	の	を	っ	て			光	自				
聞	は	。	ら	ず	ろ	の	い	よ	を	か	。			で	分				
こ	考	。	う	れ	う	う	つ	う	を	。				照	が				
え	え	。	。	は	。	に	か	に	。					ら	今				
な	ら	。	。	こ	。	壁	な	正	。					さ	い				
い	れ	。	。	こ	。	に	。	の						れ	る				
隣	な			こ		。		字						る	自				
の	い			を				を						自	分				
部	。			出				彫						分	の				
屋				て				る						の	手				
を				元										手	や				
見				の										足	を				
た				世										を					
。				界															
				に															

最早人形ではなく小さな人そのものだった。
 頭の整理が追いつかない番才は自分が今見
 ているものがなんなのか確かめようと細部へ
 と視線を動かそうとした。すると「なにじろ
 じろ人のこと見てんのよ！見せ物じゃないわ
 よ！」と叱責され、人形は再び女将の方へ向
 き直し抗議を再開した。
 「うるさいねえ。」
 女将は徐に人形を掴み横にある箱の中に入れ
 上に重石としてお盆を被せた。
 「あーっ、こらー、ちよつとー！なにすんの
 よ！ここから出しなさいよー！」
 くぐもった声と一緒に箱が内側から暴れてい
 る。女将はそのことを意にも介さず目線で番
 才に座ることを促した。
 「この方が新しい宿泊者ですか？」
 「ああそうさ。名前はさつき決まったばっか
 りだけど“仏蘭（ふらん）”と言ってね、あ
 んたも見てわかる通り人形だよ。」
 「こらー！勝手に人のことそいつにべらべら

本人が	「まあ	しっしっ。」	かされ	てんの	「ちよ	「えっ	違う。」	てのこ	ちろん	「ごく	言われ	「なる	うやつ	「長い	「あつ	ことが	箱が抗	「あつ
そう	来た	と箱が	たくな	のよ！	つとー	？違		ことだ	ここに	く稀に	て初め	るほ	つだ。」	年月を	つ、あ	がない	が抗議	ころら
言う	たば	箱が暴	くない	！やめ	とー！	うん		だが。	泊まり	にや	て納	ど。」		経て	りませ	いかい	する。	！無
の	かり	れ始	いのよ	めて！	！なに	です		この	りに	つて	得		道具	す。	？」			視
なら	で興	めた。	！あ	！あ	にそ	か？		子は	来る	来	で		に魂					す
この	奮		つち	んた	いつ			それ	なり	る	可		や					る
話	して		行き	なん	に全			とも	の理	こと	能		霊					ん
は	いる		な	かに	部			また	由	があ			魂					じ
また	から		さい	に同	話			毛	があ	つて			が					ゃ
後	ね。		いよ、	情	そう			色	ね。	ね。			宿					な
日				な	とし			が	も	も			ると					い
に				ん				あ	も				い					わ
し				ん				っ					い					よ
								っ					い					！
								っ					い					と

み	を	自	し	ん	ら	「		て	に	強	「	の	唐		い	い	っ	免	像
る	掴	分	な	な	跳	ガ		こ	は	張	こ	声	突		く	う	た	疫	し
と	む	で	の	の	び	タ		ち	黄	つ	つ	に	に		よ	好	が	が	て
、	。	自	主	よ	の	ン		ち	色	っ	ち	不	不		う	奇	、	出	い
声	少	分	は	急	き	っ		ら	い	」	だ	自	自		な	心	さ	来	た
の	し	を	二	に	そ	」		を	綿	と	よ	然	然		気	が	ら	始	。
主	い	抱	足	大	れ	と		見	の	音	こ	な	方		分	鬱	に	め	自
は	よ	き	歩	き	か	を		上	塊	発	っ	方	向		だ	々	宿	て	分
二	ー	締	行	な	ら	し		げ	の	し	」	か	聞		っ	屋	い	に	
足	！	め	で	声	距	な		て	よ	な	」	こ	こ		た	に	る	不	
歩	と	る	立	出	離	が		い	う	が	」	え	こ		心	こ	こ	思	
行	喚	よ	つ	し	を	ら		た	な	番	」	て	え		に	っ	と	議	
で	く	う	何	て	取	番		。	物	才	」	き	て		水	っ	と	な	
立	箱	に	か	。	る	は			体	は	」	た	き		を	て	な	か	
つ	を	両	だ	ち	。	椅			が	椅	」	た	た		注	み	か	対	
何	よ	手	っ	よ		子			左	子	」	た	た		い	た	か	す	
か	そ	の	だ	つ		か			手	か	」	た	た		で	い	か	る	
だ	に	二	っ	と					を		」	た	た		い	と			
っ	番	の	っ	説					上		」	た	た		い				
た	才	腕	っ	明					げ		」	た	た		い				

と綿が不器用にその場で悔しがる素振りを見	「かーっ。あなたには勝てねえぜまったく。」	何か言伝かい？」	「それはあなたに任せるとするよ。それで、	ができてませんぜえ。」	「おうおれだ。女将さんよお、若え衆の躡	らんめえ口調の何かを見続けた。	方を向き、番才はもう一歩分後ろに下がりべ	人型の綿の塊の首の部分が付け根から女将の	「ん？あーその声は『號虧（ごうき）』かい	奴にそいつはちよいと失礼じゃねえかい！」	「変な物とはなんでい！兄ちゃん初対面の	二度見三度身を繰り返している。	いか言葉が出てこず、「あっ、えっ！？」と	番才は自分が見ているものをどう説明してい	が。」	「いやあ、あのっ！あ、足下になんか変な物	と笑いながらこちらを見ている。	角度的に見えていない女将は「ひっひっひっ	「番才どうしたんだい？誰か来たのかい？」
----------------------	-----------------------	----------	----------------------	-------------	---------------------	-----------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	---------------------	-----------------	----------------------	----------------------	-----	----------------------	-----------------	----------------------	----------------------

